

事務事業評価シート

事業番号 No. 25		事務事業名 街中いきいーなサロン補助金		所管部課 高齢者支援課						
基礎情報	事業開始時期【1】	平成28年度		実施形態【2】 ☐ 直営 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ その他 ()						
	根拠法令等【3】	(市)西東京市介護予防・日常生活支援総合事業実施要綱、西東京市介護予防・日常生活支援総合事業補助金交付要綱、(国)介護保険法								
	総合計画【4】	基本目標 3 笑顔で自分らしく暮らせるまち	基本施策 8 いつまでも健康で元気に暮らすために	施策 8-2 高齢者の社会活動や生きがいの充実						
	個別計画【5】	計画 西東京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(第9期)	施策等① 生きがいの支援	施策等② 生きがいの場の提供						
事務事業の概要	事務事業の目的と目指す成果【6】	高齢者等の社会参加を促進し、地域において自立した日常生活を営むことができるよう支援するため、「通いの場」を補助することで、高齢者等と地域とのつながりを通じて、介護予防にも取り組める地域づくりを目指す。								
	事務事業の内容・実施方法等／補助の概要【7】	【補助の概要】 ■支払方法:概算払 ■国・都補助の有無:あり 重層的支援体制整備事業交付金 ■上乗せ横出し補助の有無:なし ■補助対象:街中いきいーなサロン登録団体 ■補助額・率:実施回数は一月最大5回までとし、活動の区分に応じ、当該各号に定める額の合算額とする。 (1)介護予防に資する活動(15分以上の介護予防体操等の実施)あり 1回目5,000円(2回目以降2,500円) (2)介護予防に資する活動(15分以上の介護予防体操等の実施)なし 1回目2,000円(2回目以降2,000円) ■補助対象経費:報償費、需用費(茶菓子代で1名につき1回100円まで)役務費、使用料及び賃借料、備品購入費 ■特記事項:街中いきいーなサロンとは、地域の身近な場所で、子どもから高齢者まで誰でも通える「通いの場(サロン活動)」として、市が登録した団体。高齢者の社会参加を主な目的として、フレイル予防や介護予防に繋がる活動を住民主体で提供している。 ※市要綱上の補助事業名は「住民主体型通所サービス及び地域介護予防活動支援事業」である。								
事業費データ	項 目	令和5年度(決算額)		令和6年度(決算額)		令和7年度(決算見込額)		令和8年度(予算額)		単位
	事業費計【8】	3,299		3,828		4,210		5,096		千円
	財源内訳	1,238		1,436		1,579		1,911		
	国庫支出金・都支出金	1,649		1,914		2,105		2,548		
	その他(介護保険料)	412		478		526		637		
	一般財源	4,826		5,340		6,089		6,093		
	人件費計【9】	0.70 人 4,695 千円		0.70 人 5,205 千円		0.80 人 5,948 千円		0.80 人 5,948 千円		千円
内訳	0.10 人 131 千円		0.10 人 135 千円		0.10 人 141 千円		0.10 人 145 千円			
会計年度任用職員	8,125		9,168		10,299		11,189			
総コスト										
活動実績	項 目	令和 5 年度		令和 6 年度		令和 7 年度		令和 8 年度		単位
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	見込値	
	①登録団体数	-	44	-	48	-	52	55	-	団体
【10】	②①のうち補助金交付団体数	-	43	-	44	-	46	51	-	団体
成果指標	項 目	令和 5 年度		令和 6 年度		令和 7 年度		令和 8 年度		単位
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	見込値	
	年間延べ参加者数	-	12,930	-	18,355	-	26,350	29,000	-	人
	①【成果指標の説明】	街中いきいーなサロン補助金を利用している団体の年間延べ参加者数								
	年間開催回数	-	1,178	-	1,672	-	2,108	2,290	-	回
【11】	②【成果指標の説明】	街中いきいーなサロン補助金を利用している団体の年間開催回数								
事業環境等	事業実施における課題点と改善に向けての取組【12】	15分以上の介護予防体操等は、サロン独自のため有効性に疑問が生じている。そのため令和7年度は、実際にどのような体操等を実践しているのか、どのような体操等であれば実践可能かアンケート調査を実施。令和8年度は「フレイル予防スタートブック(健康長寿医療センター研究所)」を活用した体操を実践できるよう講習会を企画。								
	他団体の実施状況【13】	近隣4市に確認したところ、4市ともに社会福祉協議会委託。補助額は、いずれも西東京市よりも低額であった。								
	代替・類似サービスの有無【14】	☒ 有	いきいきミニデイ・ふれあいのまちづくり(社会福祉協議会)・みんなの居場所「地域の縁側プロジェクト」(社会福祉協議会)。							
	☐ 無	登録を重複している団体あり。								

【検証項目】

		一次評価	二次評価	本部評価	
検証項目 【15】	必要性	事業の実施が国・都の法令等で定められている	非該当	非該当	
		市が主体となって実施しない場合、市内における当該サービスの提供が不十分になる恐れがある	該当	該当	
		現下の社会経済情勢に見合った事業である	該当	該当	
	有効性	成果指標の達成状況はどうか	1	1	0 /9
		上位施策等の目的の達成に向けて事業の対象は適切か	3	3	
		上位施策等の目的の達成に向けて事業の内容・実施方法は適切か	3	3	
	効率性・経済性	業務プロセスに改善の余地はないか	2	2	0 /9
		投入したコストが活動実績に見合っているか	2	2	
		国・都の補助金や受益者負担など、一般財源以外の財源確保がされているか	3	3	

【一次評価・二次評価】

一次評価 【16】	必要性	各サロンで参加費を徴収することを認めているが、参加者への負担を軽減すると、活動継続には厳しい金銭状況である。安定的で、かつ、発展・充実した内容となる活動を継続するためには、今後も補助金が必要である。	二次評価 【17】	必要性	地域とのつながりや介護予防などにつながる取組であり、登録団体数及び活動者数の増加が見られ必要性は認められるが、高齢者クラブやその他の類似サービスとの違いが明確ではないと考えられるため、一定の整理が必要と思われる。
	有効性	延べ参加者数や開催回数の増加を踏まえると、高齢者の社会参加や生きがいがいづりの促進において本事業は有効である。一方で、月1回15分以上の活動で補助額が加算されるが、心身機能向上には週1回以上が望ましい。また、補助金を使い切れず返還する団体が半数を占めていることから、補助額の見直しが必要である。		有効性	当初設定された目的等と現在の実施状況に整理が必要と考えられる。また、介護予防に資する活動については、市の保健師や地域包括支援センター等の関係機関等にもご協力いただきつつ、活動の充実に向けた技術的な支援についても検討する必要がある。
	効率性・経済性	業務プロセスについては、レシートや領収証を1枚ずつ目視で確認し、エクセルにまとめている。そのため、補助金の精算作業に時間と労力を割いており、改善の余地がある。また、順調に団体数が増加しているが、年々予算額が増加しており、投入コストに見直しの余地がある。		効率性・経済性	概算払で交付した補助金額に対して、活動実績が下回り、返還となるケースが発生していることから、申請方法を含め、再検証が必要である。また、実績報告の確認等に係る職員の負担が大きいことから、効率的かつ効果的な事業運営に向けた整理や検討が必要である。

【外部評価】

評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等【18】

【行革本部評価】

	コストの方向性	評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等
	総合評価	

改善の方向性と今後のスケジュール【19】
